

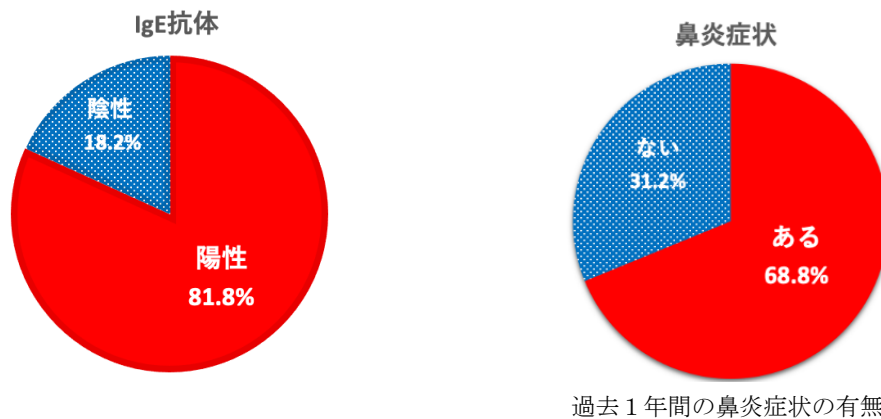
報道関係者各位

2022年8月24日  
国立成育医療研究センター

出生コホート研究  
**13歳時点で68.8%が鼻炎症状、81.8%はIgE抗体陽性**  
湿疹が乳児期から持続するタイプは、様々なアレルギー症状の併存リスク高

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵2-10-1、理事長：五十嵐隆）のアレルギーセンター大矢幸弘センター長、山本貴和子医長、木口智之医師らは同施設で2003年から一般の小児を対象として行ってきた出生コホート研究（成育コホート）での出生時から13歳までのデータから、日本（東京）の青少年のアレルギー症状の実態と、湿疹の出現時期や持続経過により併存するアレルギー疾患のリスクが異なることを報告しました。この論文は、日本アレルギー学会公式英文国際雑誌 *Allergology International* に掲載されました。

【図：調査参加者、13歳時点での症状】



【プレスリリースのポイント】

- ・調査参加者の13歳時点で、過去1年間に鼻炎症状を認めたのは68.8%でした。喘息症状（喘鳴）があったのは5.8%のみでした。
- ・調査参加者は13歳時点で、81.8%が何らかのアレルゲンにIgE抗体陽性（感作）<sup>1</sup>でした。
- ・13歳までの間に、35.7%が湿疹（アトピー性皮膚炎）の既往がありました。湿疹が乳児期から持続するタイプは6.8%、乳児期によくなるタイプは23.7%、乳児期以降に湿疹が出るタイプは5.1%でした。
- ・湿疹が乳児期から持続するタイプは、喘息症状や鼻炎症状や花粉症やアレルギー感作（IgE抗体陽性）との併存リスクがありました。一方、乳児期以降に発症するタイプは鼻炎症状のみ関連し、その他のアレルギー症状やアレルギー感作とは関連がありませんでした。
- ・湿疹が持続するタイプは、スギ感作（IgE抗体陽性）が90.6%で認められ、湿疹がこれま

<sup>1</sup> アレルギーの原因となる物質を「アレルゲン（抗原）」といい、私たちの身のまわりには、食物、花粉、ダニなど多くのアレルゲンが存在します。このアレルゲンが体の中に入ると異物とみなして排除しようとする免疫機能がはたらき、「IgE抗体」という物質が作られ、この状態を「感作」といいます。いったん感作が成立した後に、再度アレルゲンが体内に入ると、IgE抗体とくっつき、マスト細胞からヒスタミンなどの化学伝達物質が放出され、アレルギー症状を引き起こします。

でないタイプも 63.5%がスギ感作を認めました。

### 【研究手法】

同センターで出産予定の妊婦（1701人）と、生まれた子ども（1550人）を対象に行っている成育コホート（出生コホート<sup>2</sup>）のデータを使用・分析しました。2003年から2005年に妊娠した母親を登録し、現在も母親と誕生した子どもを妊娠中から継続的に追跡し、アンケート調査、診察、血液検査により、喘息などのアレルギー性疾患や症状、IgE抗体価などを調査しています。病院を受診した子どもを調査したのではなく、当センターで出産した一般集団の子どもを追跡し、健康状態の推移を調査した縦断的研究（前向きコホート研究）です。過去にさかのぼって情報をあつめて比較する後ろ向きコホート研究や、現時点のみを調べる横断研究よりエビデンス・レベルの高い疫学調査です。

### 【研究結果・発表者のコメント】

湿疹（アトピー性皮膚炎）の経過は子どもによって様々ですが、乳児期から持続する湿疹タイプはそのほかのアレルギー症状との併存リスクが高くなります。また、日本人の青少年の多くが鼻炎やアレルギー検査陽性になっていることからアレルギーの増加が懸念されます。また、喘息症状より鼻炎症状に困っている青少年が多いと考えられます。個々の症状に合わせた適切な介入が推奨されます。

### 【発表論文情報】

著者：木口智之、山本貴和子、齋藤麻耶子、福家辰樹、大矢幸弘

題名：Eczema phenotypes and IgE component sensitization in adolescents: A population-based birth cohort

所属名：国立成育医療研究センターアレルギーセンター

掲載誌：Allergol Int. 2022 Jun 30:S1323-8930(22)00070-3

URL: <https://doi.org/10.1016/j.alit.2022.05.012>

### 【研究費】成育医療開発研究費

#### 【問い合わせ先】

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

企画戦略局 広報企画室 近藤・村上

電話：03-3416-0181（代表）E-mail:koho@ncchd.go.jp

<sup>2</sup> 出生コホート研究：子どもが生まれる前から成長する期間を追跡して調査する疫学手法です。胎児期や小児期の環境因子を含め様々な曝露因子が、子どもの成長と健康にどのように影響しているかを調査します。大人になるまで追跡する場合もあります。